

地理空間情報産学官連携協議会
共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループ(第1回)
議事概要

1. 日時

平成20年11月 6日(木) 10時30分～11時30分

2. 場所

中央合同庁舎第2号館低層棟 国土交通省共用会議室3A・B

3. 出席者(敬称略)

<産>

衛星測位システム協議会

○(財)衛星測位利用推進センター

(特)国土空間データ基盤推進協議会

gコンテンツ流通推進協議会

スペーシャリストの会

(社)全国測量設計業協会連合会

(財)日本情報処理開発協会

(社)日本測量協会

(財)日本測量調査技術協会

(社)日本地図調製業協会

(社)北海道総合研究調査会

<学>

東京大学 空間情報科学研究センター 准教授 有川 正俊

○東京大学 空間情報科学研究センター センター長・教授 柴崎 亮介

北海道大学大学院 文学研究科 准教授 橋本 雄一

東京海洋大学大学院 特任教授 安田 明生

東京大学 空間情報科学研究センター 特任教授 山田 晴利

大阪工業大学 教授 吉川 眞

<官>

○内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション)付

○国土交通省国土計画局

○国土交通省国土地理院

内閣府政策統括官(防災)付

警察庁科学警察研究所犯罪行動科学部

総務省自治行政局

総務省情報通信国際戦略局

文部科学省研究開発局

農林水産省農林水産技術会議事務局

経済産業省商務情報政策局

国土交通省大臣官房

国土交通省総合政策局

国土交通省海上保安庁海洋情報部

環境省総合環境政策局

○ 幹事

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ① 共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループの趣旨について
 - ② 地理空間情報の利活用に係る研究概要について(講演)
 - ③ ワーキンググループの活動スケジュールについて
 - ④ 研究開発動向に関する調査の進め方について
 - ⑤ その他
- (3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

- (1) 議事①(共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループの趣旨について)
 - ワーキンググループの官側幹事 国土交通省国土計画局大野参事官より資料1について説明
 - 質疑応答
 - ・(東大 柴崎センター長)会議資料等は公開との事であるが、公開方法はどのように考えているか。
→(国土交通省国土計画局)親委員会である産学官連携協議会全体会議と同様、内閣官房のホームページから資料等をダウンロードできるよう、準備中である。
 - ・(経済産業省商務情報政策局)このワーキンググループで扱う研究開発の対象範囲は、地理空間情報の利活用として有用なものを幅広く扱うという趣旨で良いか。
→(国土交通省国土計画局)そのとおり。
 - ◎議事①について了承された。
- (2) 議事②(地理空間情報の利活用に係る研究概要について)
 - 東大 柴崎センター長より、資料2を用いて講演を頂いた。
- (3) 議事③(ワーキンググループの活動スケジュールについて)
 - 官側幹事より資料3について説明
 - ◎議事③について了承された。
- (4) 議事④(研究開発動向に関する調査の進め方について)
 - 学側幹事 東大 柴崎センター長より資料4-1について、官側幹事 国土交通省国土計画局大野参事官より資料4-1について、産側幹事 (財)衛星測位利用推進センター木村専務理事より資料4-3について説明
 - 質疑応答
 - ・(大阪工業大学 吉川教授)産業界について、アンケートを行う範囲は、ワーキンググループのメンバーだけか。
→((財)衛星測位利用推進センター)本メンバーに限らず、幅広く様々な分野の企業に依頼する予定であり、全体で100社程度を想定している。
 - ・(経済産業省商務情報政策局)資料4-3のアンケートを用いて収集した情報を、資料4-1の様式に落とし込むという理解でよいか。
→(東大 柴崎センター長)そのとおり。アンケートの際、資料4-1も合わせて配布する予定であり、資料4-1に直接書き込んで頂いても良い。
 - ・(経済産業省商務情報政策局)例えば資料4-1に例として挙げられている「社会的弱者や家族の見守り・緊急対応サービス」で考えると、このカテゴリーの中で具体的なアプリケーション毎に必要な機能は様々で、実現するための技術内容も異なると思うが。
→(東大 柴崎センター長)まずは具体的な事例を想定して幅広く提案いただきたい。最終的には編集作業において、総合的に見てとりまとめを行い、基盤となる技術にハイライトを当てる必要があると考えている。
 - ・(経済産業省商務情報政策局)様々な要素技術を同じ列に並べてしまうと、要素技術によっては互

いの相性が悪く、全体として何を指した技術群であるかが不明確になると思われる。

- (東大 柴崎センター長)その点については注意が必要である。ただし、今回は大きな括りで共通的な技術要素を見出し、全体の見取り図として Over View を描くことが目的であり、厳密な摺り合わせを行う必要は無いと考えている。研究開発マップを整備した後必要に応じてブレークダウンを図るように考えている。
- (国土交通省国土計画局)今年度については、まずは全体の見取り図ができればよいと考えている。
- ・(東大 山田特任教授)資料 4-1 で想定するアプリケーションとは、いつ頃実現されるものを想定しているか。
- (東大 柴崎センター長)まずは、今後 5 年～10 年後程度で実現できるものを整理していきたいと考えている。
- ・(東大 山田特任教授)共通的な技術課題を抽出する事に加えて、最終的には共通的に使うデータの整備も重要であるとする。
- (東大 柴崎センター長)そのような観点もアンケート調査で拾えるようにしている。それらについても整理を行いたい。
- ・(北大 橋本准教授)共通基盤の定義に関して、日本全体をどの程度網羅している必要があるかといった基準はあるか。例えば、日本における積雪寒冷地は、面積は 6 割程度であるが、人口は 2 割程度であり、このような場面で想定される技術も対象と考えてよいか。
- (東大 柴崎センター長)積雪寒冷地での適用例は共通基盤技術と考えてよいと思う。基本的にはアンケート回答者が共通基盤技術と考える範囲で回答頂きたい。
- ・((特)国土空間データ基盤推進協議会)議題②の講演の中で、共通コード付与の重要性が述べられていたと思うが、現状の資料 4-1 では、この観点があいまいではないか。
- (東大 柴崎センター長)まずはどの範囲の共通化が必要かを教えてほしいと考えている。研究開発マップの中では、単に共通コード化だけでは分からないので、具体性を持って記載して頂くように、この様な表現となっている。資料 4-1 の最後の 3 項目については、その他の技術的なものと性格が異なるので、表の上でも違いを分かるようにしておく。

◎議題④について了承された。

◎なお、調査内容について質問等あれば、幹事へ問い合わせ頂きたい。

(5) その他

- ・(東大 柴崎センター長)これまでに地理空間情報に関して類似の調査・整理を実施したものがあれば、今回の調査の参考にしたいので、その報告書等、情報を提供いただきたい。

◎次回は、12 月 5 日(金)午前を予定。

以上